

林業機械メーカーとの交流会について

1 はじめに

国内有数の林業機械メーカーであるイワフジ工業(株)の本社が奥州市にあり、プロセッサやハーベスタのほか、そのベースマシンなど多種多様な機械を製造し、森林・林業の経営へ大きく貢献してきました。

路網集材が主となる今日において、同社ではフォワーダの生産が主力となる一方、林業経営体も他社や外国製の機械を導入する事例が増え、次第に同社との繋がりが失われつつあり、地元の林業経営体から、「営業とは接点があるが、設計技術者と話をしたことがない。せっかく奥州市に大手企業がいるのだから、設計技術者との交流を機に、地場産業の活性化に繋がらないか。」と提言を受け、当局においても林業施業の省力化とスマート林業普及のため、今般、標記交流会を開催しましたので紹介します。

2 交流会の概要

交流会には、イワフジ工業5名、林業経営体5社(6名)、当局2名の計13名が参加し、始めにイワフジ工業からの情報提供(会社概要、新製品紹介工場見学)の後、技術的な内容を主とした意見交換を行いました。



イワフジ工業(株)からの情報提供

3 意見交換の内容

各々が自由に発言する形式で進め、以下の意見等が挙げられました。林業経営体は機械の仕組みを確認でき、技術者にとってはユーザーの声を聴く良い機会となりました。

- (1) イワフジ工業の架線式グラップルが新発売されたが、林業経営体で架線を動かせる資格者の状況は。
- (2) フォワーダの足回りに泥が溜まらない工夫、楽に昇降できるようキャビン等位置の変更、コスト削減として、ダンプアップ機能を廃止してはどうか。
- (3) 機械伐採の可動範囲を20m先まで伸ばすことが出来れば、人力伐採と道路開設のコスト削減が図られる。
- (4) 海外製ハーベスタのトップソーは、あれば便利だが必要なものではない。
- (5) イワフジ工業製品は丈夫で長持ちするが軽量化に課題がある。海外製は機動性に優れるが壊れやすい。

4 おわりに

地元企業と林業経営体との良好な関係を築くため、引き続き支援に努めて参ります。



意見交換の様子